



## ひので映画大使最新版

### 第25回映画大使「ALWAYS 三丁目の夕日'64」

期 日 平成24年1月17日(火)

場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

#### 【ストーリー紹介】

あの「三丁目の住人」が帰って来た！

前作から5年後の昭和39年、東京はオリンピック開催を間近に控え、湧きかえっていた。茶川竜之介はヒロミと結婚し、高校生の淳之介は小説家になるのを夢見ていた。ヒロミは身重でもうすぐ家族が増える。お向かいの鈴木オートも店が大きくなったりして、順風満帆の様子。しかし、従業員の六子の様子が最近おかしい。朝になると急におめかしして、どこかへ出かけている。彼女に一体何が？

笑いあり、涙ありの人情ドラマ。3D版では、リアルなあの頃の東京を間近に体感できる！



(C) 2012 「ALWAYS 三丁目の夕日'64」製作委員会

### 映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。



今回、参加された映画大使の皆さんです！

#### ▶ 映画大使の「第一声！」

昭和の古き良き時代を満喫！

感動で涙が止まらなかった・・・

3Dである時代を再現！臨場感タップリ！

#### ▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

私はあの時代10代でしたが、風景がとても懐かしかったです。街並みや車、看板などもきちんと再現されていて、とても興味深く観られました。

Bさん

私も東京オリンピックの頃は中学生でした。まるであの時代にタイムスリップしたようで、家に初めてテレビが来た時のワクワク感など当時の事を思い出しました。出演していた小雪さんが実際にも出産されましたが、撮影中にどうだったのかな、という事なども考えながら観ていました。

Cさん

私は当時小さかったのですが、とても懐かしく観られました。どこまでが特撮で、どこまでが本物なのか解らないくらいでした。この作品は3Dでしたが、東京タワーのシーンなどで凄く効果的で良かったです。当時のCMなどは、今と違って長く使われる事が多かったので、知っているフレーズも沢山あって本当に懐かしかったです。

Dさん

私は丁度この年に生まれました。両親から当時の話を聞いていたので、映像をみて、こういう中で私を育ててくれたんだなって、自分を重ねながら観ていました。物語にも吸い込まれて泣いてしまいました。お金持ちとか有名になるよりも、些細な事でも自分の好きな事が出来るのが本当の幸せなんだよっていう事をよく訴えていて、私の娘も小説を書いています。夢を持ち続けて欲しいという親の想いは一緒だと感じました。

Eさん

1作目、2作目もそうでしたが、今回も感動で涙が止まりませんでした。私は東京オリンピックの時はまだ生まれていませんでしたが、主人が昭和33年産まれで、東京タワーに登るのが楽しみだった事、白黒テレビからカラーテレビになった時の事、オリンピックの事など色々話は聞いていました。空に描かれた五輪が凄く綺麗だったそうです。実際観たら感動したんだろうなと想いながら観ていました。3D作品だった事から、まるで自分も住人になったような、町を歩いているような気分になりました。当時は高度成長期で、皆が未来に希望を託して、豊かさを求めて、階段を登っていくような感じだったと思うのですが、今はその階段を登りきり、あとは下っていくだけの様な所があります。そんな時必要になってくるのが、「心の豊かさ」なのだろうと深く感じました。子を想う親の気持ちもよく伝わりました。

Fさん

また三丁目の人達に会えたなって感じでした。人情などは全く変わってなくて、すぐ作品に溶け込めました。今回はそう簡単に泣くものかと思っていたのですが、やはり最後は泣いていました。自分が親にされた事を自分の子にもする(茶川が淳之介に)シーンがありましたが、淳之介がそれを解っていてくれて嬉しかったです。本当の親子でなくてもきちんと伝わっているんだな、と感動しました。昭和の時代が3Dで見事に再現されていましたね。

Gさん

あきる野映画祭で1作目を上映した時に、監督が舞台挨拶に来られていましたが、若い方でしたので、よく昭和のあの時代を忠実に再現したな、と思った事があります。今回のテーマは「幸せとは何か」という感じで、好きな事をしたり、地位とかではなく、他人に喜んでもらえる事とか、新しく生まれる命の幸せとか、六子の幸せとか、これからの子供達の幸せとか、とにかく幸せが一杯詰まっていて、震災もあったので、尚更感動しました。おなじみのキャラと新キャラも笑えたり、涙もあるし、喧嘩のシーンも3Dで面白かったです。次回作のテーマも考えてしまいました。

#### 📌 作品の内容 (印象に残ったシーンなど)

- ・シーンで登場した昔の電車や新幹線('64年開通)は本当に走っているようでした。
- ・あの頃、みんなオリンピックに夢中で、テレビがある家に集まって釘づけでした。3輪で走る車も懐かしかったです。
- ・薬師丸ひろ子さんをはじめ、役者の演技も素晴らしかったですね。今作は、薬師丸さんや堤真一さん、山?A監督が昭和39年生まれなので、薬師丸さんの発案でこの時代になったそうですね。
- ・脇役も「見た事ある人」が多く出演され、皆個性的でしたね。
- ・当時の流行や風景描写に「古き良き時代」を満喫できました。
- ・人間同士の繋がりが今は薄いので、もっと絆を大切にしたいと思いました。
- ・携帯やパソコンが無い頃は、手紙や固定電話でしたよね。ポストが気になったり、連絡がつかなくてソワソワしたり…
- ・夕日が見たくなりました！
- ・繰り返し観たい作品ですね。

#### 📌 まとめ

お馴染みのキャラクターが今作でも笑いとお涙を届けてくれました。今作では夢を追い続ける事、それがその人にとっての幸せに繋がるんだというテーマがありました。舞台は高度成長期に湧き、皆が活気に満ち溢れている時代でしたが、どんな小さい事でもいいから夢を持つという事は、物が溢れ、希望を見失いがちな現代の我々に深く訴えるものがありました。また、家族の絆、親の気持ちと子供の巣立ちなど、どの世代が観ても感銘を受ける内容でした。あの時代に想いを馳せて大いに盛り上がった今回の映画大使。大使の方の感想にもありましたが、「次回が楽しみ」な作品でした！

➡ 関連ページ: [これまでのひので映画大使](#)

➡ 関連ページ: [ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係  
電話042-597-0511(内線544)

[◀ 前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町平井2780番地 電話 042-597-0511(代表)  
Copyright © 2011 Hinode Town All Rights Reserved.

[サイトマップ](#) | [このサイトについて](#)